

令和7年12月9日  
課名 土木建築局営繕課  
担当者 課長 河野  
外線 082-513-2311

## 「ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2025」の最終審査結果について

### 1 要旨・目的

魅力ある建築物の持続的な創造に向けたクリエイティブな人材育成の一環として実施している「ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2025」において、全国の建築学生より応募があった26作品の中から1次審査で選定された5作品を対象として、公開による最終審査を行い、最優秀作品等を決定した。

### 2 実施概要

- (1) 応募対象者  
全国の大学、大学院、高等専門学校等の建築関連学科に在籍する学生  
(個人又はグループによる応募とする。)
- (2) 対象建築物  
世羅スノーステーション(世羅町)

### 3 最終審査の概要

- (1) 審査日時 令和7年11月15日(土) 13時00分～17時30分
- (2) 会場 TKPガーデンシティ広島駅前大橋 ホール6C  
(広島市南区京橋町1-7 アスティ広島京橋ビルディング6F)
- (3) 内容 1次審査通過者によるプレゼンテーション、審査員による質疑応答など

各賞	応募者氏名	所属学校(所在地)
最優秀作品賞 (1点)	村上 幹太郎、上林 竜也、 飯田 雅、田中 希、藤本 悠花	京都工芸繊維大学大学院(京都府)
優秀作品賞 (2点)	信重 李宇、山下 雄大	岡山県立大学大学院(岡山県)
	田邊 穂高、劉 子洋	東京理科大学大学院(千葉県)
入賞 (2点)	齋藤 巧	九州大学大学院(福岡県)
	山本 彩世、大原 虎太郎、 村上 寛明、森 菜由希	広島工業大学・大学院(広島県)
審査委員長特別賞※ (3点)	村上 諒	東京科学大学大学院(東京都)
	坂本 紘都	近畿大学大学院(大阪府)
	劉 治君、根岸 花帆	読売理工医療福祉専門学校(東京都)

※周辺環境に溶け込むよう、多様性のある魅力的な緑地を配置した提案、周辺の住宅から着想を得るという独創的なデザインアプローチを行った提案やダイナミックかつ美しいプロポーションで意匠性に突出した提案など、将来性のある優れた提案であると評価された作品

#### 4 最優秀作品及び選評（提案書は別紙）

作品名：「スノスタ - Snow Stand」

提案者：村上 幹太郎、上林 竜也、飯田 雅、田中 希、藤本 悠花(京都工芸繊維大学大学院)



提案作品パース



模型写真

#### （選評）

外観のプロポーシオンはもとより、建物内に入った時の壁や屋根裏の見え方がシンプルで均整がとれており美しい。前面道路からのセットバックが確保されており、車両出入時の安全面にも配慮されている。また、必要な設計条件を守った上で、建物脇に停車した車両に天井の開口部から直接資材を積み込むことができるなど省力化を図る新しい方法が提案されており、機能的で効率的な作業が行えるよう工夫された作品となっている。

#### 5 審査委員

委員	氏名	所属等
審査委員長	安部 良	建築家、Architects Atelier Ryo Abe 代表 東京藝術大学美術学部建築科准教授
審査委員	田中 健二	建築家、株式会社 SHDL 代表取締役
	大野 慶雄	建築家、オオノヨシオ建築設計事務所主宰 広島工業大学非常勤講師
	南 博高	広島県土木建築局土木整備担当部長
	吉田 勝則	広島県土木建築局建築技術担当部長

## 6 最終審査会の様子

現地で公開審査を実施、また、YouTube により WEB 配信を行った。



審査会場の様子



公開プレゼンテーション及び審査委員による選考の様子



最優秀作品賞表彰式の様子

## 7 今後の予定

最優秀作品については、作品の提案主旨を踏まえて設計事務所による実施設計を行うこととしており、提案学生が設計者に対して意見・提案等を行いながら進めていく(令和8年6月完了予定)。



通過しながら積み下ろせる半屋外のビットは、倉庫の営みを道にひらく新しい提案である。雪の日に出勤する車両がふと立ち寄る姿を思わせる“スタンド”という名の拠点を描く。

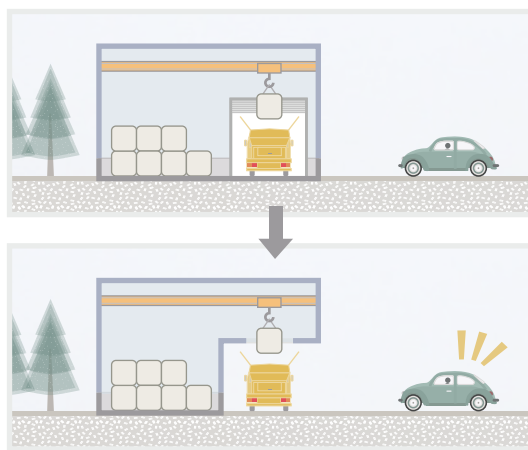
## 01 春夏秋冬、格納する倉庫

スノーステーションは、冬の積雪から市民の安全を守るべく働く人々を送り出し、迎えるための一時的な整備拠点です。しかし、一年の大半は出勤に備えた格納庫として過ごすため、全ての機能が内側に納められ、整備拠点としての役割が外に現われていません。これからのスノーステーションは人々の営みが表に現れ、雪の降る日に働く人々へ春夏秋冬、思いを馳せることのできる存在であるべきではないでしょうか。



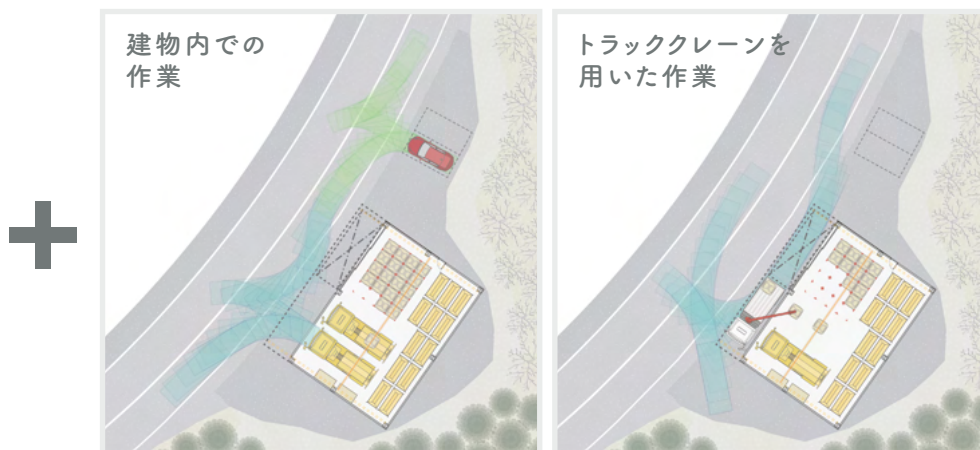
## 02 道に冬の営みを表す

冬に働く人々の姿を道やまちから見えるように半屋外での積み降し作業を可能にした。三方に開かれた作業場は車のなかから見えやすく、運転しながらでも彼らの動きに気付けます。施設が稼働していないときでも、道に張り出したボリュームが路上に存在感を示し、建物に近づくにつれて把握できる機械スケールと開口の配置がきっかけとなり、格納庫以上のはたらくを人々に想起させることを期待します。



## 03 「ステーション」から「スタンド」へ

半屋外の作業場は、作業車を倉庫内に駐車する手間を省きます。車は道路から建物の脇にビットインするだけで出勤までの準備が整い、現場へ迅速に駆けつけられます。帰還時の機材の返却もスムーズに行われ、作業員を速やかに日常へ送り出します。屋外までクレーンを持ち出すことができるため、クレーンがないトラックでの荷運びにも対応できるほか、室内と室外の同時使用による作業効率の向上も期待されます。



## 04 ビットで完結する作業

ビットと倉庫内の備品の運搬は、天井面に設えた手動の水平スライド戸を介して行います。スライド戸の開閉と並行してクレーンの準備ができるため、時間短縮につながります。唯一の出入り口となる勝手口側にビットと運搬物を配置することで、動線を建物のほぼ半分に納めています。特に、消費と補充が多い凍結防止剤を道路側に配置することで全体の作業効率の向上に寄与します。

## 安全への配慮

## ■注意喚起

扱いに注意が必要なクレーンと接触の恐れがある水平スライド戸まわりの部材をオレンジ色に塗装することで、対象物の誘目性を高め、注意喚起を促します。

## ■接触事故への対策

散布機をクレーンで最高点まで引き上げた場合、散布機と梁の間には高さ680mm、開口周りには短手510mm、長手1350mmのゆとりが設けられ、建築各部との接触を防いでいます。

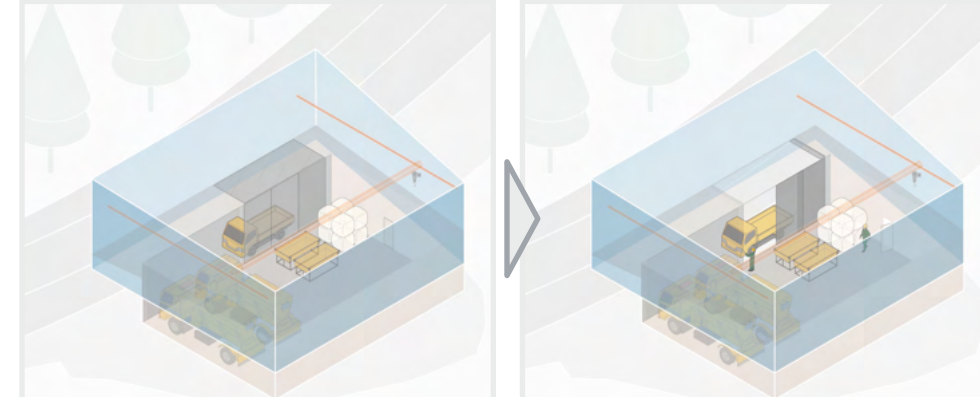
## ■視界の確保

天井には5.7×2.27mの大開口を、壁には7.5×4.15mの引き戸を設けて視界をひらき、建物内外を跨ぎながら作業を確認できます。

## 05 ふたつのシンボル

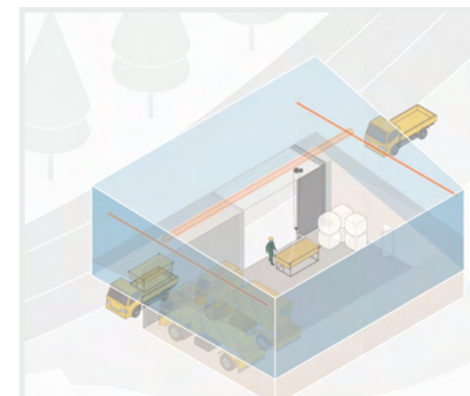
二方向からのアプローチがある本敷地において、建物を道に正対して配置し、シンメトリーにデザインしました。建築はどちらの道に対しても同じ佇まいを魅せ、ドライバードイツの唯一のシンボルになります。下段の住宅地からは木々の隙間から青い屋根が透けて見え、地域にのびのびとした冬らしいシンボルとなります。

## ビットを使用した出庫フロー

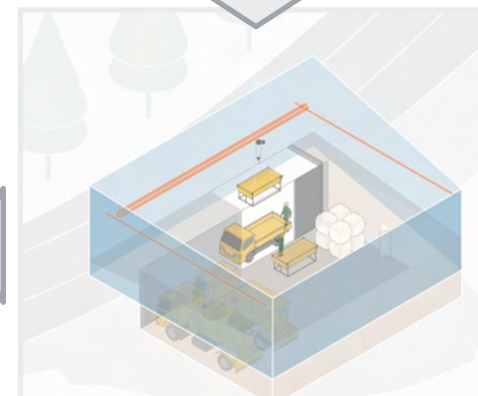


① 出勤前の2トントラックや機材補充のためのトラックを道路から切り返すことなく建物の脇にビットイン

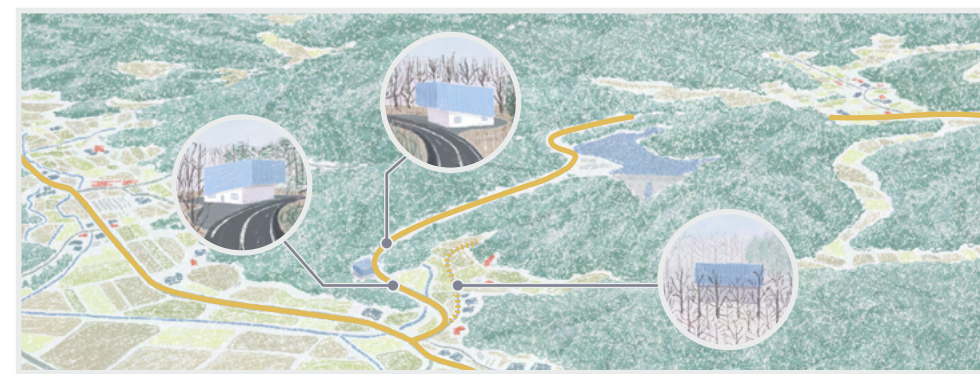
② 勝手口から作業員が中に入り、入口近くの照明をつけたあと、引き戸を開け、手で天井のスライド戸を開ける



④ 後ろから次の車両がビットインし、続けて資材の積み下ろしを行うことが可能



③ 必要な資材をクレーンに取り付け、外に運び出し、トラックに資材を下ろす



## 断面計画 内外を横断するクレーンにより、多様な活用を生むビット

